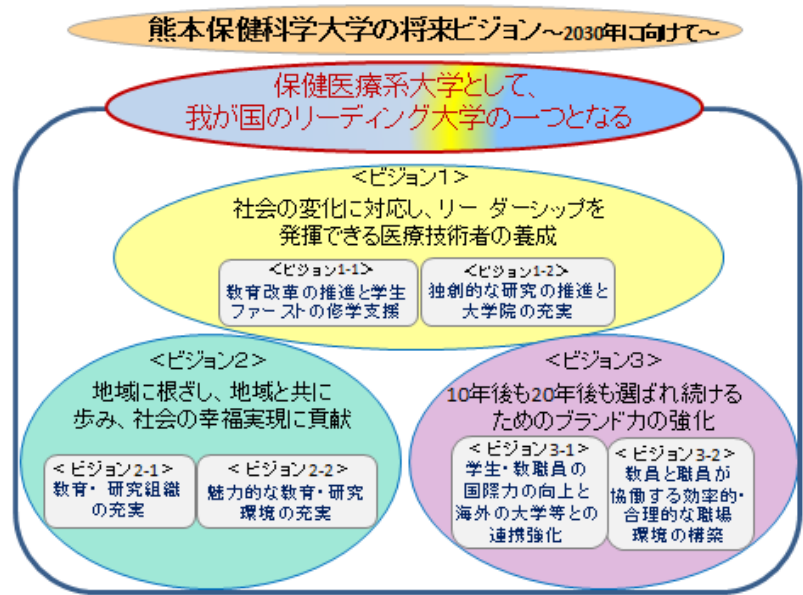


学長のコラム

熊本保健科学大学の将来ビジョン～2030年に向けて～

本学は、「保健科学分野の教育と研究を通して、社会に貢献できる医療技術者を養成する」ことをミッションとし、「知識」、「技術」、「思慮」、「仁愛」の四綱領と四つの基本理念を掲げて、実績を上げてきており、それなりの評価も得ている。他方、今後 10 年程度の間で大学進学者が 10 万人減少すると予測される状況や、2025 年問題に代表される超少子高齢化社会の到来に加え、多くの職業を代替可能とする AI・ロボットの発達やさらなるグローバル化の進展が想定される近未来がある。この環境下、本学が受験生から選ばれ続け、学生が就職先の医療機関・施設等から選ばれ続けるために、また、「熊本に熊本保健科学大学あり」と評価されるような、さらに優れた大学を目指して、右記に示す将来ビジョンを定めることとした。本学が進むべき方向として全教職員に共有していただ



なお、このビジョンの下に、アクションプランの作成が必要になるが、4年に一度作成する中期目標・計画をもってこれに替えることとする。2030年というのは、これから3期を終え、本学が創立70周年を迎える頃を意味する。

平成 30 年度科学研究費採択

平成 30 年度の科学研究費助成事業（基盤研究、若手研究）に 8 件新規採択されました。おめでとうございます。（敬称略）

種目	氏名	期間	研究課題名	交付予定額 (直接経費)
基盤研究(B)	飯山 準一	H30-32	慢性腎臓病発症および進行に対する全身温熱習慣の影響と、その基礎メカニズム解明	13,500,000
基盤研究(C)	水本 豪	H30-32	脳損傷者の言語処理方略とその背景要因に関する研究	3,400,000
基盤研究(C)	宮本 恵美	H30-32	失語症者と日本語学習者に対する動詞及び格助詞の習得法の開発～双方の特徴を生かす～	1,500,000
基盤研究(C)	安部 眞一	H30-32	in vivo 精巣形成と in vitro 再構築における CD34+内皮細胞の役割	3,400,000
基盤研究(C)	上妻 行則	H30-32	緊急手術で使用可能な新規止血薬および nectin-2 を標的とした抗血小板薬の開発	2,700,000
基盤研究(C)	岩下 佳弘	H30-32	温熱プレコンディショニングによるシスプラチン誘発性腎障害軽減の機序解明	3,200,000
若手研究	田邊 香野	H30-32	リン酸化酵素 CaMKII による IgE クラススイッチ制御メカニズムの解明	3,100,000
若手研究	松原 慶吾	H30-32	嚥下関連筋群のサルコペニアの経時的変化の検討：地域高齢者を対象とした追跡調査	3,200,000

4月・5月の主な行事予定

4/1 (日)	新規採用者オリエンテーション	4/13 (金)	平成 29 年度成績優秀者表彰式 杏友会（教職員）歓送迎会（KKR ホテル熊本）
4/2 (月)	入学式、辞令交付式、実習認定式（看護新3年次）	4/21 (土)	学部 4 年次保護者会
4/5 (木)	新入生歓迎会（学友会主催）	5/3 (木)	花と食の祭典（フードパル）～5/4 (金)
4/12 (木)	P&P 優秀ポスター賞表彰 学長裁量経費成果報告会	5/12 (土)	看護学科 3 年次保護者会
		5/15 (火)	開学記念日

入学式

平成30年4月2日(日)春の佳き日に、新しく出来たアリーナにおいて入学式を挙げていただきました。医学検査学科115名、看護学科116名、リハビリテーション学科137名(理学47名・生活48名・言語42名)、大学院7名、助産別科21名、認定看護師教育課程(認知分野)23名、総計419名の新入学生・研修生を迎え、

多数のご来賓、保護者の皆様にご臨席いただきました。新入学生・研修生を代表して医学検査学科の今福実里さんが宣誓を行い、学長と握手を交わしました。新しい大学生活の始まりです。



(文責:総務課)

池田教授 熊本県医事・薬事・健康づくり功労者知事表彰祝賀会

3月24日にKKRホテル熊本で、池田勝義教授の熊本県医事・薬事・健康づくり功労者知事表彰受賞・福見秀雄賞受賞、増永純夫熊臨技会長(本学園評議員)の厚生労働大臣表彰・伊藤機一賞受賞の祝賀会が熊本県臨床検査技師会主催で開催されました。当日は、崎元学長がお祝いのお言葉を述べられ、100名を超える盛大な祝賀会となりました。池田先生 おめでとうございます。

(文責:医学検査学科 野中)



ハラスメント防止研修会

ハラスメント防止研修会を3月29日に開催し教職員123名が参加しました。

本年度はNPO法人福岡ジェンダー研究所の高木里美先生をお迎えし「ハラスメントのないキャンパスづくりのために」と題し、医療系で生じやすいハラスメント問題、指導とハラスメントの違いなどを事例を交えてご講演いただきました。

午後には、ハラスメント相談窓口の教職員15名を対象に「相談員研修会」を開催し、グループワークにより具体的な窓口対応のアドバイスをいただきました。

今後も研修会などを通じて、お互いの個性と能力を尊重してイキイキと輝く教育環境の維持と更なるハラスメント相談体制の整備を推進したいと考えます。(文責:総務課 平緒 泰弘)

第2回FDセミナー

3月27日(火)に、平成29年度第2回FDセミナーを開催しました。今回は教育方法改革委員会との合同開催とし、前半は各学科の教員によるアクティブラーニングの課題と対策についての報告、後半は九工大の宮浦先生による講演(演題:大学の「アクティブラーニング」が目指すもの)を行いました。講演では、東工大の田中先生、崇城大学の大嶋先生にも友情出演していただき、貴重なお話を聞くことが出来ました。

参加者も100名を超え、充実した時間を共有できたのではと思います。(文責:FD委員長)

日・台・韓細胞検査士合同セミナー

第9回日・台・韓細胞検査士合同セミナーに参加して

今回、私たちは、2月24日(土)くまもと県民交流館パレアで開催された第9回日本・台湾・韓国細胞検査士合同セミナーで発表する機会を与えて頂きました。

まず、発表に向けて、先輩方の卒業研究の内容を理解するとともに、自分たちで英語に訳しました。その後、実際に発表を担当する4人で、発音や声量、アクセント、話すスピードなどを意識しながら練習を重ねました。

初めての学術集会での発表という事に加え、英語による発表ということもあり、とても緊張しましたが、練習の成果もあって無事発表を終えることができました。

セミナーの後の懇親会では、各国の参加者の皆様から、お褒めの言葉を頂き、達成感を得ることができたと同時に、先輩方を誇りに思いました。

今回のセミナーで、現役の細胞検査士の方々の発表を聞いたこと、また、懇親会で、実際に細胞検査士の皆様とお話しする機会を得たことで良い刺激を受け、今後の勉強に対する意欲が湧きました。

このような、貴重な機会を設けてくださった南部先生、亀山先生をはじめとする諸先生方には、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。(文責:医学検査学科4年 井手のぞみ)



国家試験合格状況

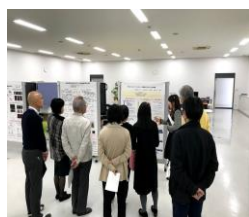
()は全国

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	昨年の合格率 (%)
第104回 保健師	21 (8,191)	19 (6,666)	90.5 (81.4)	100.0 (90.8)
第107回 看護師	110 (64,488)	108 (58,682)	98.2 (91.0)	98.1 (88.5)
第101回 助産師	21 (2,230)	21 (2,201)	100.0 (98.7)	95.0 (93.0)
第64回 臨床検査技師	101 (4,829)	97 (3,828)	96.0 (79.3)	93.2 (78.7)
第53回 理学療法士	45 (12,148)	44 (9,885)	97.8 (81.4)	100 (90.3)
第53回 作業療法士	42 (6,164)	36 (4,785)	85.7 (77.6)	97.7 (83.7)
第20回 言語聴覚士	36 (2,531)	35 (2,008)	97.2 (79.3)	97.2 (75.9)

【学務

平成 29 年度学内研究助成・研究成果報告会

3月22日にキャンパステラスにおいて平成29年度学内研究助成・研究成果報告会を開催しました。午前の部ではAタイプに採択された山口教授の特別報告会、午後の部はポスター形式による報告会を行いました。ポスター形式は今回初めて実施しましたが、口頭発表による報告会よりも報告者への質問がしやすいと好評で、フロアでは活発な意見交換がなされていました。また、当日参加者に投票していただきポスター賞が以下の通り決定しました。おめでとうございます！（※五十音順）（文責：企画課）



責任研究者	タイトル
田邊 香野 講師 (医学検査学科)	「IgE クラススイッチを制御するシグナル伝達経路の解明」
野崎 周英 教授 (医学検査学科)	「アルツハイマー病ワクチンの研究」
羽田野 花美 教授 (看護学科)	「LGBT 学修支援に関する研究」

「Love子宮の日」啓発活動に参加して

地域包括連携医療教育研究センター「つなぐ力」と「生きる達人」プロジェクトの一環として、医学検査学科4年生で有志を募り、子宮頸がんについて疫学から検査方法などの医療職としての知識を自分たちで調べ、定期的に勉強会を開催して理解を深めています。また、一般の方向けにわかりやすくまとめ説明することで、受診者の増加や一般の方々の子宮頸がんについての理解、意識の向上を目指しています。

去る4月8日(日)、「Love子宮の日」と称して日本臨床細胞学会細胞検査士会が全国的に展開している子宮頸がん検診啓発活動が、ゆめタウン光の森にて開催され、私たちがボランティアで参加しました。本学の細胞検査士である南部先生および亀山先生、そして各病院の細胞検査士の方々とチラシや資料の配布、そしてブースに来てくれた方へ説明をするなど、とても貴重な経験、学びを得ることができました。

少しでも多くの方が子宮頸がん検診を受け、早期発見に貢献できたら幸いです。

(文責:医学検査学科4年 犬童光子)



私の秘話ヒストリー

今回は看護学科の村瀬 美香助教に投稿していただきました。

昨年度、いくつか取り組んでみたことがある。その中の1つが「試写会に応募してみる」ことだった。以前の職場で、よく同僚に誘われて試写会に行っていたことを思い出して応募を始めた。昨年は10作品の試写会が当たり、今年はすでに2作品が当たった。試写会はネットで検索し気になる映画をとりあえずエントリーしてみる。今までは忙しさに流され、映画を観る時間を惜しく感じ、自ら選んで映画を観るのは年に1回程度だった。しかし、試写会が当たりチケットが手元に届くと「よし行こう」と足が向く。最近では「トレインミッション」を観て、久しぶりに普段と違うドキドキ感を味わえた。現実の生活の中で大変だと思う事があっても、映画を観る事ですっかり感情をその世界に移す。そうすると、映画が終わるとスッキリとした気分になったり心に新たな感情が生まれたりする。新年度は、マラソンで身体の体力をつくり、映画で心の体力をつけながら頑張ろうと思う。